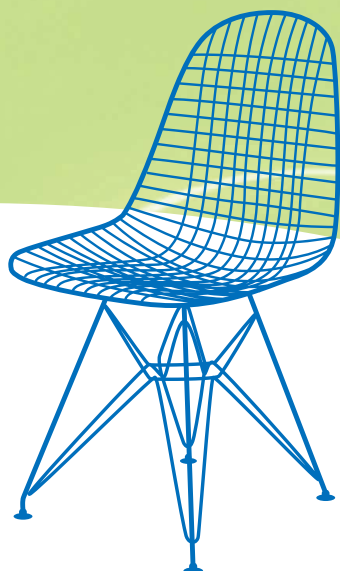




KRICEキャンパス鹿児島

授業交流(単位互換) コーディネート科目

令和7年度

受講生募集!!

鹿児島大学会場
鹿児島国際大学会場
志学館大学会場
鹿児島県立短期大学会場
第一工科大学会場 等

授業科目

1. 鹿児島データサイエンス実践
2. えっこれだけ?
頑張らない健康運動のススメ
3. 異文化コミュニケーション論
4. 発達心理学
5. 「ことば・文化・こころ・教育」
6. 法学特殊講義Ⅱ
7. 人間と文化
8. 人間、動物、環境の健康：
One Health の基礎

開設大学

- 鹿児島大学
鹿屋体育大学
鹿児島国際大学
鹿児島国際大学
鹿児島純心大学
志学館大学
鹿児島県立短期大学

第一工科大学

■学生の皆様へ

- ・学校によっては取扱いに違いはありますが、単位を修得すれば、所属大学等の単位として認められますので、申し込む前に所属大学等を確認して、お申し込みください。
- ・この他にも多数の単位互換科目がありますので、詳しくは、所属大学等へお問い合わせください。
- ・開設大学と開設場所は、異なることがあります。

主 催：大学地域コンソーシアム鹿児島
連絡先：鹿児島大学学生部教務課教務係

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30
TEL:099-285-7351 FAX:099-285-8808
E-mail:kkyomu@kuas.kagoshima-u.ac.jp

科目名 鹿児島データサイエンス実践

授業概要

本授業は、データ解析を通じて社会課題の解決策を提案し、それを競争形式でプレゼンテーションすることを目的とする。そのため、データの選定、解析手法、視覚化技術の理解が不可欠であり、実践的なデータサイエンスのスキルを習得することを目指す。

授業は2つのパートに分かれる。前半は、広く利用されているデータ分析ツール「Tableau」を用いて、データ解析の基礎をオンデマンドで学ぶ。後半は、グループごとに社会課題をテーマに、Tableauを使ってデータ解析を行い、解決策を模索する。最後に、各グループが成果をプレゼンテーションする。

授業は配布資料等による講義と自己演習、課題レポートを組み合わせた形式で行う。

学習目標

- ・データの選定、解析手法、視覚化技術を理解し、適切に活用できる。
- ・データ分析ツールを用いたデータ解析を通じて、社会課題への解決策を提案できる。
- ・プレゼンテーションで、論理的に成果を発表できる。

授業計画

1. データサイエンスとは何かを理解する／オンデマンド授業
 2. Tableauの導入／オンデマンド授業
 3. Tableauの基本操作とデータハンドリング／オンデマンド授業
 4. Tableauによる解析と可視化（棒グラフ・時系列データ）／オンデマンド授業
 5. Tableauによる解析と可視化（クロス集計と表計算）／オンデマンド授業
 6. Tableauによる解析と可視化（マップ表現・その他のグラフ）／オンデマンド授業
 7. Tableauによる解析と可視化（2次元のデータと散布図、回帰分析）／オンデマンド授業
 8. 課題設定／対面
 9. 課題に沿ったデータの取得①／対面
 10. 課題に沿ったデータの取得②／対面
 11. データを解析・可視化し問題解決方法をさぐる／対面
 12. プレゼンテーション準備／対面
 13. プレゼンテーション準備／対面
 14. プレゼンテーション（コンペティション）／対面
 15. 振り返りと改善／対面
- ※ 期末試験は行わない（指定期日までにレポートを提出）

試験・評価方法

課題（提出物）：60点 プレゼンテーション：40点

担当教員 伊藤 昌和

開講場所 鹿児島大学郡元キャンパス（教室が決まり次第、お知らせします。）

開講期間 1～7回 オンデマンド：令和7年8月1日～令和7年8月17日
8～15回 対面：令和7年8月18日～令和7年8月21日

開講時間 12:50～16:00

単位数 2単位

成績発表時期 10月上旬

定員 100名

対象 ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流（単位互換）の参加大学等の学生〔大学の学生（専攻科生、大学院生は含まない）、短期大学の学生（専攻科生を含む）、高等専門学校4年次生、5年次生及び専攻科生〕

特記事項 ◆ 一般の方の聴講：不可
◆ 申込先：所属大学等
◆ 申込期限：7月18日（金）
◆ 連絡先：鹿児島大学学生部教務課教務係 電話099-285-7351
◆ その他：授業では個人のPCを使用します。またデータ分析アプリTableau（学生は無料）をインストールします。

科目名 えっこれだけ?頑張らない健康運動のススメ

授業概要

健康健康と叫ばれる世の中で、運動に取り組みたい方は多いと思います。高校生までは必死に運動していたのに…あれ、最近ちょっと太ったかも？と運動不足を感じる学生の方、多いのではないのでしょうか。

細くなりたい！痩せたい！運動不足を解消したい！学生の皆さんも体型や健康について考える時間がだんだんと多くなってきたのではないのでしょうか。しかし、息切れするようなキツイ運動なんてしたくないでしょう。どのように運動すれば健康になれるのかは高校までの授業では習わないので、誰も教えてくれません。テレビでも動画サイトでも、みんな言っていることは様々で、ウソかホントか…？

本授業では健康のための運動の理論と方法を学びます。科学論文と実験研究の結果をもとにした内容をかみ砕いてお伝えします。

頑張らない運動の世界へようこそ！

学習目標

- ① 健康づくりのための理論を学び、理解する。
- ② 健康づくりのための運動方法を学び、(老若男女)一緒に運動を実践する。
- ③ 自分自身の運動のペースを理解する。
- ※ 実践する運動は個人の年齢や体力によって調整可能です。

授業計画

4コマ/日 (9:00～16:00) × 2日間

【1日目：体力について】

- 1. 理論編：学生の健康と将来の健康
- 2. 理論編：健康づくりの運動と減量
- 3. 演習編：実験しよう！健康関連体力(スタミナ)を測る①
- 4. 演習編：実験しよう！健康関連体力(スタミナ)を測る②

【2日目：ウォーキングとジョギング】

- 5. 演習編：測定結果を評価する
- 6. 理論編：あえて速く走らない？スロージョギング®
- 7. 演習編：いざ実践！スロージョギング®
- 8. 演習編：まとめ

※ 内容を一部変更することがあります。

試験・評価方法

授業への取り組み (30%) 授業内実験レポート (40%) 最終レポート (30%)

担当教員 古瀬 裕次郎 (鹿屋体育大学スポーツ生命科学系)

開講場所 鹿児島大学郡元キャンパス 共通教育棟1号館2階 124、125号講義室

開講期間 8月6～7日の2日間

開講時間 4コマ/日 (9:00～16:00) × 2日間

単位数 1単位

成績発表時期 9月中

定員 30名前後

対象 ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流 (単位互換) の参加大学等の学生
[大学の学生 (専攻科生、大学院は含まない)、短期大学の学生 (専攻科生を含む)、高等専門学校の4年次生、5年次生及び専攻科生]
※ ただし、運動禁忌の疾患を持つ者、要支援要介護の者、医師から運動を止められている者は演習部分の受講ができないため、受講自体は可能であるが最終的に単位を認定できないことがある。

特記事項 ◆ 申込先：所属大学等 ◆ 申込期限：6月30日 (月)
◆ 連絡先：鹿屋体育大学教務課教育支援係 電話0994-46-4865
◆ 資料は無料で配布します。
◆ 運動に適した物品をご準備ください (室内シューズ、飲料水、動きやすい服装、着替え、タオルなど)。
◆ 昼食は各自負担です。

科目名 異文化コミュニケーション論

授業概要

地球上の誰もが文化の違いを超えて心を通わせ相互に理解しあえる方法があれば、これほど素晴らしいことはないが、現実の世界で起きている様々な出来事を見るにつけ、そんな魔法のような方法はどこにも存在しないことを認めざるを得ない。しかし、私たちが生きている21世紀のグローバル化した世界の持続可能性は、多様な文化の共存を認めあい、異文化間コミュニケーションの困難を克服しようとする各人のたゆみない努力にかかっていることもまた厳然たる事実である。文化とコミュニケーションをめぐる多様な概念を理解した上で、その理解を異文化間コミュニケーションの様々な場面で活用し問題解決を図ることができるマインドセットを身につける。

毎回授業内で小グループに分かれてディスカッションを行い、異なる意見に触れることを通して自分の考えを深めてもらう。授業を通して実際にコミュニケーションスキルが高められるようにする。

学習目標

1. 異文化接触の場面でどのようなコミュニケーション不全が起こりうるかを説明できる
2. 自分自身の文化的背景やその文化の特徴を客観的に把握する
3. 異なる文化的背景を持つ相手とも積極的に意思疎通を図ることができる
4. 文化の違いを認めあいながら議論や交渉に参加し自分の意見を述べることができる

授業計画

- 第1回 文化とは？
- 第2回 文化の可視性と不可視性
- 第3回 文化的偏見とステレオタイプ
- 第4回 多民族・多文化・多言語社会
- 第5回 大学(学校)におけるコミュニケーション
- 第6回 性別役割分担と異性間コミュニケーション
- 第7回 シェイクスピアに学ぶ異文化コミュニケーション(1):ジェンダー
- 第8回 シェイクスピアに学ぶ異文化コミュニケーション(2):エスニシティ
- 第9回 シェイクスピアに学ぶ異文化コミュニケーション(3):階級
- 第10回 シェイクスピアに学ぶ異文化コミュニケーション(4):宗教
- 第11回 メディアと表象
- 第12回 異文化コミュニケーション論で時事問題を分析する
- 第13回 ケース・スタディ(1):カルチャーショックと異文化受容
- 第14回 ケース・スタディ(2):ステレオタイプと偏見を超えて
- 第15回 まとめ

試験・評価方法

レポート、授業中の意見発表および発言

担当教員 小林 潤司

開講場所 鹿児島国際大学

開講期間 前期集中講義期間中(8月上旬)の4日間

開講時間 9:10~16:10(1限~4限)

単位数 2単位

成績発表時期 9月上旬

定員 20名まで

対象

- ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生
[大学の学生(専攻科生、大学院は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校の4年次生、5年次生及び専攻科生]

特記事項

- ◆ 申込先: 単位互換生は所属大学等 ◆ 申込期限: 6月30日(月)
- ◆ 連絡先: 鹿児島国際大学教務課 [電話 099-263-0706]
- ◆ ハイブリッド授業(対面+オンライン)で実施する予定ですが、風水害などで対面授業が実施できない場合は、オンライン授業に切り替えて行います。

科目名 発達心理学

授業概要

発達心理学は、受精から死に至るまでの発達を研究する心理学の一分野である。私たちは自身に対する認知や他者との関係性を変化させてきた。もちろん、これからも変化させていく。認知や関係性のみならず、学習の成立や運動スキルの獲得にも発達に関係してくる。すなわち、発達心理学を学ぶことで、自身や他者を含めた人間への理解を深めることが可能になる。そして、それぞれの発達段階にある他者に対して、臨床的な支援を行うことが可能になる。

本授業では、発達理論だけでなく、人間の発達について、神経系、視知覚系、認知機能、思考、言語における発達と研究成果のみならず、子育てに関する悩みや虐待、発達障害など近年の問題についても取り上げる。さらに、本授業の学びを応用することを目的に、発達心理学の知見をこれまでの自身の体験や他者との関係性と関連づけ、それらを表現したり、他者の話を聞いたりする活動を行う。

学習目標

1. 各発達段階の発達特性を理解し、具体的に述べるができる
2. 各発達段階の発達特性を踏まえた上で、自身の体験や他者との関係性について表現することができる
3. 自身や他者との関わり方について、各発達段階毎の発達特性を踏まえて、自身の考えを表現することができる

授業計画

- 第1回 発達・発達心理学とは
- 第2回 生涯発達
- 第3回 神経系の発達
- 第4回 視知覚の発達
- 第5回 認知機能の発達
- 第6回 思考の発達
- 第7回 言語の発達
- 第8回 アタッチメント
- 第9回 子育ての悩み
- 第10回 子どもの虐待
- 第11回 児童～青年期の悩み
- 第12回 発達障害1：自閉スペクトラム症
- 第13回 発達障害2：注意欠如・多動症
- 第14回 発達障害3：限局性学習症
- 第15回 神経関連疾患

試験・評価方法

毎時間の小レポート、授業中の意見発表および発言

担当教員 永富 大輔

開講場所 鹿児島国際大学

開講期間 前期集中講義期間中(8月上旬)の4日間

開講時間 9:10～16:10(1限～4限)

単位数 2単位

成績発表時期 9月上旬

定員 100名まで

対象

- ◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生
[大学の学生(専攻科生、大学院は含まない)、短期大学の学生(専攻科生を含む)、高等専門学校の4年次生、5年次生及び専攻科生]

特記事項

- ◆ 申込先：単位互換生は所属大学等
- ◆ 申込期限：6月30日(月)
- ◆ 連絡先：鹿児島国際大学教務課 [電話 099-263-0706]
- ◆ 原則、対面授業ですが、急遽オンライン授業へ切り替わる場合もあります。

科目名 「ことば・文化・こころ・教育」

授業概要

講義ごとに「ことば・文化・こころ・教育」にかかわるテーマを扱い、学生自身が主体的に考え、広い視野と考察する力を身に付ける。

学習目標

大学における学修の姿勢や方法、多様な観点や考察する力を身に付けることがねらいである。

1. 学んだことを基に自分の意見を述べることができる。
2. 大学における学修する力を身に付け、自身の学修に活かすことができる。

授業計画

- | | |
|--|---------------|
| ① (1) トラウマの心、(2) カウンセリングの心 | 【餅原尚子】 |
| ② こころを彩る化学物質 | 【口岩俊子】 |
| ③ カウンセリングマインドについて | 【井上祐子】 |
| ④ 南アフリカの文化と歴史 | 【ニコール・エーラース】 |
| ※この授業は、基本的に英語でおこないます。 | |
| ⑤ British history (16th to 18th century) and culture | 【ニコラス・ウォルターズ】 |
| ※この授業は、基本的に英語でおこないます。 | |
| ⑥ 地方自治について考える | 【栗原真孝】 |
| ⑦ 現代社会における家族 | 【中村誠文】 |
| ⑧ 教育学への誘いー教育の見方・考え方 | 【広瀬健一郎】 |

試験・評価方法

講義ごとの課題による総合評価とする。

担当教員

人間教育学部教員8名によるオムニバス形式

開講場所

鹿児島大学郡元キャンパス 共通教育棟1号館4階 common room 3

開講期間

9月～12月の土曜日、1講義2コマの全16コマ

開講時間

1日1講義 (2コマ) 【午前】 9:00～12:10
1日2講義 (4コマ) 【午前】 9:00～12:10、【午後】 13:00～16:10

単位数

2単位

成績発表時期

2月中旬

定員

15名程度 (受講者5名未満の場合は開講しません)

対象

◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流 (単位互換) の参加大学等の学生
[大学の学生 (専攻科生、大学院は含まない)、短期大学の学生 (専攻科生を含む)、高等専門学校
の4年次生、5年次生及び専攻科生]

特記事項

◆ 特になし

科目名 法学特殊講義Ⅱ

授業概要

法学検定試験ベーシック＜基礎＞コース合格を目標に、試験科目である民法（物権、債権、親族・相続）及び刑法（総論）の基礎を学びます。

学習目標

- ① 法についての基本的な知識を修得する。
- ② 問題演習を通じて実践的な法知識を修得する。

授業計画

- ① ガイダンス、物権（物権変動と対抗要件）
- ② 物権（所有権、担保物権）
- ③ 債権（総論）
- ④ 債権（多数当事者間の債権債務関係）
- ⑤ 債権（不法行為）
- ⑥ 親族（基本概念、婚姻・離婚）
- ⑦ 親族（親子、相続）
- ⑧ 刑法（刑法基礎、刑罰論）
- ⑨ 小テスト（民法）
- ⑩ 刑法（罪刑法定主義）
- ⑪ 刑法（構成要件該当性①）
- ⑫ 刑法（構成要件該当性②）
- ⑬ 刑法（構成要件該当性③）
- ⑭ 刑法（違法性）
- ⑮ 刑法（有責性）

試験・評価方法

第9回小テスト50%、第15回講義終了後の試験50%

担当教員

佐藤 由佳

開講場所

志學館大学本館

開講期間

8月26日（火）～8月29日（金）

開講時間

9:00～16:10（1限～4限）

単位数

2単位

成績発表時期

9月上旬

定員

50人

対象

◆ 鹿児島県における大学等間の授業交流（単位互換）の参加大学等の学生
[大学の学生（専攻科生、大学院生は含まない）、短期大学の学生（専攻科生を含む）、高等専門学校
の4年次生、5年次生及び専攻科生]

特記事項

◆ 特になし

鹿児島県立短期大学

科目名 人間と文化

授業概要

県立短期大学 3 学科の教員 7 名が、それぞれの専門分野から、さまざまな地域・時代における「文化」を異なる角度から考察します。7 日間の集中した期間に多角的な知見を学ぶことで、受講生にとって時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。

学習目標

人間と文化について学際的に学ぶことにより、さまざまな事象を多面的に考察する姿勢を身につける。

授業計画

- 第 1 回 ネットの中の心理学 (岡村)
- 第 2 回 生活の中の心理学 (岡村)
- 第 3 回 日本語教育とは (1) 日本語を学ぶ人たちについて理解を深めよう (楊)
- 第 4 回 日本語教育とは (2) やさしい日本語について理解を深めよう (楊)
- 第 5 回 マンガとアニメ (1) 日本で生まれたグローバル文化 (その始まり) (ガルシア)
- 第 6 回 マンガとアニメ (2) 日本で生まれたグローバル文化 (現在と未来) (ガルシア)
- 第 7 回 食品の機能 (一次機能と二次機能) (中島)
- 第 8 回 食品の機能 (三次機能) (中島)
- 第 9 回 衣生活と文化 (1) 衣服の形 (浅海)
- 第10回 衣生活と文化 (2) 衣服の素材 (浅海)
- 第11回 マーケティングと「ことば」(瀬口)
- 第12回 多国籍企業の市場戦略と文化 (瀬口)
- 第13回 技術と経済の歴史 (山口)
- 第14回 現代社会における技術と経済 (山口)
- 第15回 まとめ

試験・評価方法

レポート 2 つ (85%) と毎回の授業への受講状況 (15%)

担当教員

岡村俊彦、楊虹、ガルシア・アロヨ・ホルヘ、中島一喜、浅海真弓、瀬口毅士、山口祐司

開講場所

鹿児島県立短期大学 3号館第10講義室

開講期間

令和7年9月10日～9月19日 (9月13、14、15日を除く)

開講時間

18時～21時10分 (19時30分～19時40分：休憩) 1日2講義

単位数

2単位

成績発表時期

11月～12月

定員

50名

対象

◆鹿児島県における大学等間の授業交流 (単位互換) の参加大学等の学生

特記事項

- ◆申込期限：7月31日 (木)
- ◆授業の順番が変更になる可能性があります。

科目名 人間、動物、環境の健康：One Healthの基礎

授業概要

人間、動物、環境の健康が相互に関連しているOne Healthの概念を探求し、現代の大学生にとって関連性が高く興味深いグローバルヘルスの複雑な課題に包括的なアプローチを提供します。また、最新のトレンドや社会的課題に焦点を当て、批判的思考と問題解決能力を養い、多角的な視点からのアプローチを促します。

学習目標

- ① One Healthの基本概念を理解する。
- ② グローバルヘルスに関連する現代の複雑な課題について認識を深める。
- ③ 最新トレンドと社会的課題に対する理解を促進する。
- ④ 批判的思考と多角的な問題解決能力を養う。
- ⑤ 実践的な経験を通じて社会的責任とリーダーシップを発展させる。
- ⑥ 未来の健康課題に対する積極的な取り組みを目指す。

授業計画

- 第一回 コースの導入 - One Healthの概念と重要性
- 第二回 人間の健康 - 影響要因と公衆衛生
- 第三回 動物の健康 - 疫学と人間への影響
- 第四回 環境の健康 - 汚染、気候変動、生物多様性
- 第五回 病気の発生とグローバルパンデミック
- 第六回 フードシステムと食品安全
- 第七回 持続可能な食料生産と栄養
- 第八回 最新トレンドと課題

試験・評価方法

授業への積極的な参加：50% レポートの提出・発表：50%

担当教員 馬 麗娜

開講場所 第一工科大学 1号館144講義室

開講期間 令和7年8月第4週の金、土曜日

開講時間 9:00～16:10

単位数 1単位

成績発表時期 10月～11月

定員 制限なし

対象 ◆鹿児島県における大学等間の授業交流(単位互換)の参加大学等の学生

特記事項 ◆特になし

全科目に共通のお知らせ

■ 教室の収容人員の関係で、定員に達し次第締め切らせていただきます。 ■ 各会場へは、公共交通機関でお越しください。

会場のご案内

鹿児島大学会場



鹿児島国際大学会場



志学館大学会場



鹿児島県立短期大学会場



第一工科大学会場



「KRICEキャンパス鹿児島」について

「KRICEキャンパス鹿児島」は、鹿児島県内の6大学、4短期大学及び1高等専門学校が実施している単位互換制度です。(注1)

「KRICE」は、Kagoshima (鹿児島) Regional (地域) Intercollegiate (大学間) Credit (単位) Exchange (互換) の頭文字をとった名称です。

この単位互換制度は、各参加大学等が提供している地域性や独自性豊かな特色ある授業科目の中から、希望する科目を、科目開設大

学等(注2)で履修し、修得すれば所属大学等において単位として認定されます。

なお、検定料、入学料及び授業料は無料です。(但し、科目により所定の実習費等が必要な場合があります。)

また、コーディネート科目の他にも多数の単位互換科目がありますので、詳しくは、所属大学等へお問い合わせください。

(注1) 参加大学等: 鹿児島大学、鹿屋体育大学、鹿児島国際大学、鹿児島純心大学、志学館大学、第一工科大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学、第一幼児教育短期大学、鹿児島工業高等専門学校

(注2) 科目開設大学等: 単位互換制度に伴い、授業科目を提供する大学等

大学地域コンソーシアム鹿児島

連絡先: 鹿児島大学学生部教務課教務係
TEL: 099-285-7351 FAX: 099-285-8808